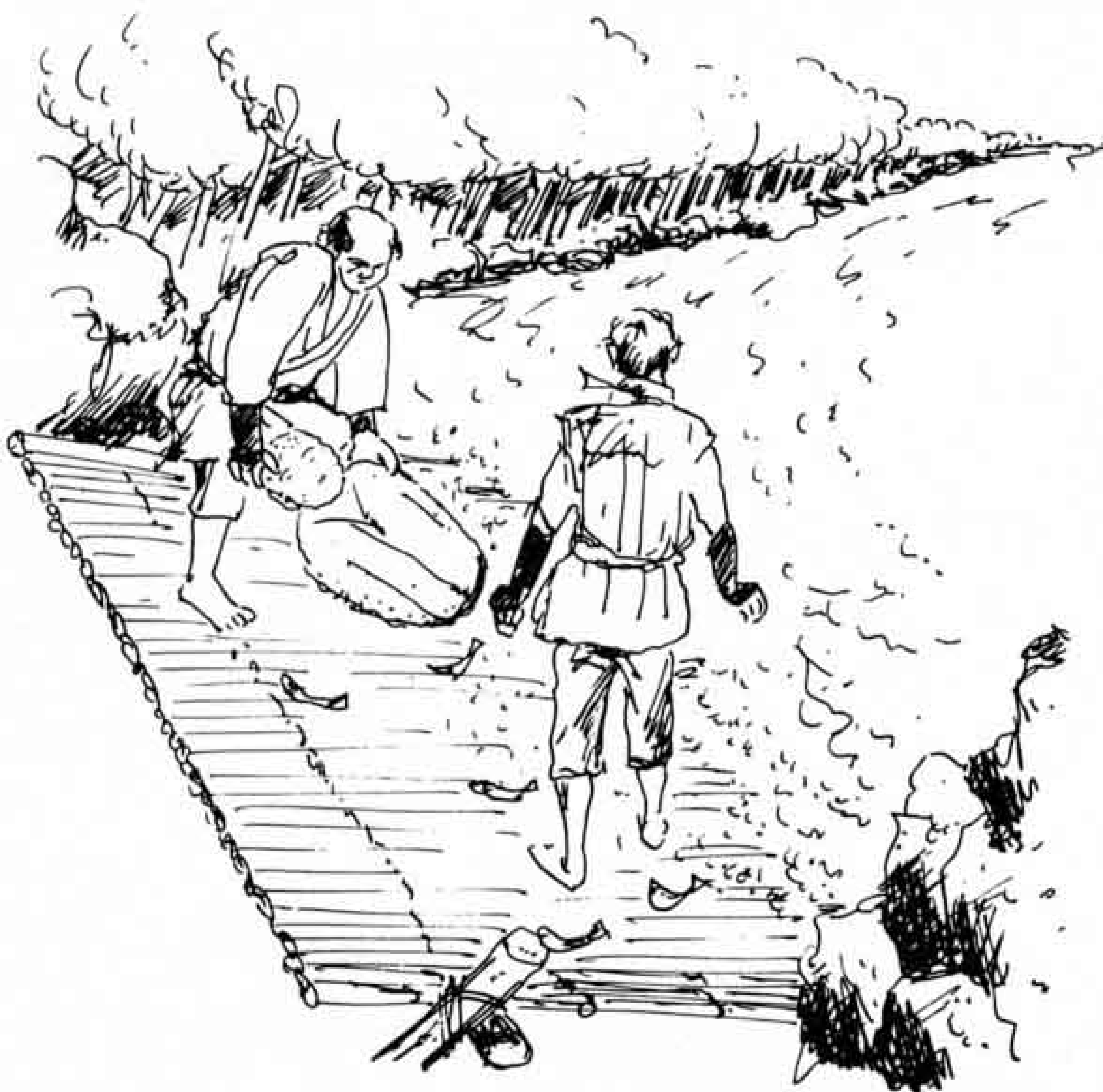


ふるさとの昔話

宮島 やな場のお地蔵さん

新富士駅から西へ五分ほど歩いた住宅地の中に「やな場の地蔵さん」と呼ばれる石仏があります。今回は、宮島の大石武夫さん（七十五歳）と吉川彦太郎さん（六十九歳）に、このお地蔵さんの話を伺いました。



やなにかかった地蔵

木・竹などで川を遮り、魚をとる仕掛けをやなと言います。昔、富士川がとても暴れん坊のころ、宮島地区には幾つもの川があり、やな漁が盛んでした。大雨の降った翌日のことです。漁師がやなへ行くと、何か大きな物がかかっているではありませんか。「よいしょ」と引き上げると、それは五十センチぐらいのお地蔵さんでした。どこから来たのかわからないのでそのままにしておく、毎

＜やな場の地蔵さん



＜大石さん(右)と吉川さん



晩小僧が出てきて火をたいいてるといいます。しかし、朝確かめると火をたいいたあとなどありません。不思議に思った村人たちは相談して、そのお地蔵さんを祭ることにしました。

移転で続く不幸

時はたち、村人は宮島下の観音様と一緒に祭った方がよからうと、場所を移しました。ところが、それから急に、子供が病気になるなど、不幸が続くようになりました。どうして

だろうと思っていると、あるおじいさんの夢にお地蔵さんが二回もあらわれました。

それを聞いた村人は、お地蔵さんが元の場所に降りたがっているに違いないと思い、元に戻しました。すると、不幸がピタリとなくなりました。

八月二十三日がお祭り

大石さんと吉川さんは「お地蔵さんは山梨県から流れて来たらしいね。八月二十三日がお祭りで、昔はごちそうをしたりして楽しんでました。今は周りの人で行っています。お地蔵さんを動かしたのは戦争中で、実際不幸が続き困ったよ」と語ってくれました。

あなたの生活便利メモ ③

宿題に困ったら……

長い夏休みもお盆を過ぎるとあつという間。小・中学生の皆さん宿題は終わりましたか？

「まだ、全然」と言うのんびり屋さんにお勧めが、市立博物館です。学芸員の荻野裕子さんは「博物館は市の歴史や文化、製紙業の成り立ちなどをわかりやすく展示しており、自由研究や歴史の勉強にもってこいです。」



荻野裕子 学芸員



広見公園の一角にあるので、隣接の歴史民俗資料館（眺峰館）や旧松永家住宅などと一緒に見れば、昔の生活を肌で感じることがもできます」と話します。毎週月曜日と祝祭日の翌日が休み、入館料は大人百円、小・中学生は五十円です。年七・八回の企画展等もあります。詳しくは、博物館 ☎三三三六へ。

趣味は、もちろん山登り。新婚旅行だって、雅弘さんの夢をかなえたアフリカのキリマンジャロでした。

川久さん夫婦の山登りは、自然志向派。山のおいを吸い込んで、花を眺め鳥の声を聞きながら、ユーユーゆったり登ります。

2人にとって、山はオアシス。だから、ごみや空き缶に目を光らせませす。山の自然を、そのまま後世に残したいと考えていますから。



遊々タイム

……………③

【山のおい】

山の話になると、とびっきりいい笑顔になる厚原の川久雅弘さんと美津子さん。「みっちゃん」「おじさん」と呼び合い、山のおいのような、仲のよい夫婦。

こちら編集室

残業を終えて帰る途中、いつも中学生がたむろしている所があります。そこは塾。夏休みは休みどころか、

特別講座があるとか。西郷隆盛なら「ちえすと」かな。遅ればせながら暑中お見舞い申し上げます。